

## 第4回志津川湾保全・活用計画策定委員会 議事録

日時：2021年10月18日（月）14:00～16:30

会場：南三陸町自然環境活用センター

出席者：阿部富士夫委員長、菅原きえ委員、阿部民子委員、阿部将己委員、工藤真弓委員、鈴木卓也委員、鈴木孝男委員、阿部拓三委員、畠山桂委員

事務局：及川主任、鈴木研究員、太齋（サスティナビリティセンター）

及川主任より挨拶。

### □事務連絡

事務局：資料の訂正をお願いしたい。議事次第では第3回とあるが第4回の間違いなので訂正を。

阿部委員長挨拶：前回は半袖で会議に出席していたのが、今朝6時で4.5度と一気に秋から冬にきた事務局からは、出来れば今日おおかた決めたいという指示をされたが、これまですごい活発な議論をされてると改めて、素晴らしいと思った。ここでの提言は、委員の皆さんのが納得したものしたい。議論することはもう無いよというくらいやっていければなと思う。

### □議事

- 1 志津川湾保全・活用計画の目標（将来像）について
- 2 志津川湾保全・活用計画提言案の構成について

事務局：1ヶ月前倒しになったこともあります、提言案の作成が思うように進められておらず、皆様にご迷惑おかけするが、第5回までの間に何回かやり取りさせていただきメール等でご意見いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

1つの志津川湾保全計画の目標・将来像ということについて、前回最後の方までかなり熱く議論して頂いたものを一旦まとめてきたので、確認いただきながら、意見いただきたい。

1枚ものの資料の裏表をご覧頂き、どの案がいいか、また一番下のいきもの・自然の部分には、藻場・干潟・漁場・山里・気候変動のような文言を仮で入れたので、本日決定して頂ければと思う。

以下、議論

- ・三角のてっぺんに南三陸町の将来像「森里海いのちめぐるまち」を配置するのはとてもよい。前回ここは宗教などの案だったがやっぱこうだな、素晴らしいと思った。
- ・この図は、階層（レイヤー）になっていて、それぞれの面と面の接点というか、触れてるところの繋がりは意識できてる。たとえばあそび・学びと自然環境の接点のところにしっかりと繋がりを感じられる。
- ・いきもの・自然環境の文言も、藻場とか干潟とか、確かにそうなんだよなっていうのはある。

- ・その部分はブロックの区切りを無くして、並列で書いておけばいいような感じはする。例えば藻場っていうのは海藻藻場と海草藻場、干潟、漁場っていうのは一番最初でもいいし、もしくは2段にして、いわゆる自然の生態系サービスとかであれば藻場とか干潟とか、ここ山里って書いてあるが、森里川か。川という字が入ってくると、森林からの水の流れが、汚染も栄養も色んなものをもたらすという意味で、そういう方がいいかなと。気候変動っていうのはちょっとどうかと思う。生きものは自然環境となれば地形とか地質、気候っていうのももちろんそういうのに掛かかってる。変動とは何か？

事務局：将来にわたってのCO<sub>2</sub>の話をクローズアップせざるを得ないかなという意味合いで仮置きました。

- ・そこだけ違和感がある。気象・海象とか。気象とか海象っていうのは、生物多様性にも関わってくるところなので、そういったものを下に並べる形にしたらよい。ブロックにすると、イメージ毎として組み立てる点では良いが、色々繋がりで下から上へ上がっていくとすると、並列が多い。だから下に自然環境や生きものを入れ、自然環境を構成してるのはこういうものだと分かると良い。絵を入れるのもよい。

- ・真ん中の文が文化くらしで、その他の文がくらし文化となっているが。

事務局：くらし・文化に統一する。

- ・一番下の三角の区切りはなんか意味があるのって言われた時に、別になる。
- ・パッと見のビジュアルのイメージとして、見た目の印象はかっこいいなと思う。
- ・もうひとつは山の環境を森に限定してしまうとそれ以外の環境を無視してしまう。山イコール森ではないので、山でいいのではないか。山全部森にしなくちゃいけないということは無い。この辺の人の山は有用地で、生産の場としての山としかイメージしない。山岳の山はないので。
- ・理解する人を増やす意味では、目からの印象も1番分かりやすい。いきもの・自然環境のところに何も書いてないと漠然とぼんやりしてるが、こうやって入れた方が見やすい。志津川湾保全だけど、山とか川とか、海だけではない要素がちゃんと入ってるっていうのはとても素敵なこと。大事なのが色々なところに繋がってあるよというのが分かる。これはシンプルでもよい。
- ・気候変動もいいかと思ったが、気候だけとか気象だけの方がいいのかと。でも入れた方が絶対いい。
- ・海象っていうのは漁業にも関わるので大事なのではないか。
- ・そもそも気候ってそこに入れるとして、モニタリングするとかしたらどういったものが挙げられるのか？

事務局：ここに入れた意味としては、二酸化炭素排出による地球温暖化の話がどうしても出てくるかと考えた。

- ・そもそも二酸化炭素の排出量を入れるかどうかっていう話もでてくるのか？
- ・ブルーカーボンの話を入れておいてもいいのでは？二酸化炭素固定でいえば、干潟より藻場の方が強いわけだから。
- ・国土交通省が去年の7月にプレス発表したものの中で、干潟の経済活用をきちんと調べ50年ぐらいのスパンで考えたら東京湾の干潟の価値は1ヘクタール15億円。これまでの算定の5倍くらい大きい。金谷さんたちがやったのは1ヘクタール1年1300万円くらいという感じだったんですが、それに環境学習とかレジャーに使うとかそういうのを全部アンケート方式によって

換算して積算していったら、東京湾の4つの干潟で計算して12ないし18億円と出ている。CO<sub>2</sub>の固定は干潟ではそれほど大きく、藻場が大きいので、干潟と藻場をセットにして考えていった方がいいというふうな提言がでている。それに関しては本も出している。去年の7月に国土交通省が出しているので、国としてはこう考えてますよっていう話。だからそういうものを取り込んで、CO<sub>2</sub>の固定としては干潟や藻場もバカになんないよという話も出来る。

- ・気候って言うと天気のイメージ持っちゃう、晴れとか。だから気象。台風とかそういうものも含めて。それと海象。もうひとつ言うと、生きものの多様性がベースにあるんだけど、生きものの多様性がなんの上に乗ってるかというと地質・地形と気象・海象の上に乗ってる。地質・地形、気象・海象は生きものがどうこう出来ないので一番基盤。それに生きものがのって生きものの働きの中で、地形とかを自分の生息環境に向けていろいろ改変するとかどうのこうのでてくる。その上の生きものをどういう風にして保全していくかとか、生息場所を保持していくかということが多い様性を維持する部分で僕らが手を加えられることになってくるので、入れといた方がよい。
- ・気象・海象って言うと全地球的な話になりそうなので、例えばエネルギーとかっていう風にしてはどうか。問題にしたいのはエネルギーでは？

事務局：エネルギーは上の段ではいか。ここに来るのは人間活動の結果影響を受ける温度の話なのではないかと。

- ・海の養殖についても、ホヤは韓国から種が入ってきたり、牡蠣も国内のものであっても外から入れることによって地元の養殖業にとって代わる危険性はある。そういう将来起こってくるかもしれない話はどこに該当するのか。気象・海象か？また別の話か？健苗というかそういうものの維持が望ましいかと思うが。

事務局：おそらくはなりわい・産業に入る話ではないか。いきもの・自然是ベースになるものを守っていきましょうという話かと思う。密接に関わりあってるのは確かではあるが。

- ・気候は部分的なもので気象は物理的にすごく広い。気象の方がいい。気象・海象の方が全体を含んでる。

事務局：三角と菱形ではどちらの方がいいか？

- ・三角がよいかもしれない。今の話のように漁業とのことが下の方にいろいろ影響を及ぼす。例えば持続的な漁業であるとか、遊びや学びの中でオーバーユースになると下の自然環境の方に影響が来る。漁業とか観光とかがオーバーユースにならないように適切なとか持続可能なっていうのをイメージしやすい。暮らしとか文化が上に乗っかってる。下に直接ということではないから下の繋がりの見えやすさ的にはこれでいいのかと思ったが、自然環境に対していろいろ負の影響を及ぼしうる生業、漁業、遊びとかをいかに適正に持続可能に保っていくかというのであれば。その中で歴史的なものを含めて、文化とか何かが醸成されて上に行くというようなイメージで話が流れれば。安定感はこっちの方があると思う。
- ・シンプルさから言うとこれが一番。実感しやすい。生きもの・自然環境が崩れると上が全部崩れやすいっていうのも上の図の形の方が理解しやすい。
- ・分けるとわかりやすいのは確かにあって、よく見てみると漁場っていうのは干潟にもあるし藻場にもあるし全部重なってリンクしてるんで、線で分けると無理がある。なので生きものの自然環

境っていろんなものがあるが、その中でも志津川湾、南三陸町というと例えばこんなものがあるというキーワードを並べるっていうのがしっくりくる。

・山とか川とか里は志津川湾に栄養とか汚れとか色々もたらすもの。気象・海象は例えば高潮が来るとかいろんなところがあるので、山里川というと気候変動っていうのがまず、それに影響を及ぼす物理的要因がある。その上で干潟とか藻場とか。漁場っていうのはオープンな海域のイメージを帯びるが、それが不可分の関係にある。そうやって右側と左側を切るんじゃなくて、2行、2段にしてはどうか。

・自然環境のところに薄い字で海草藻場、干潟、漁場。そしてその下の行に山里川と気象・海象。川とか山とかからいろんな栄養だったりそういった現場の生態系が受ける影響、藻場生態系・干潟生態系・海洋生態系、漁場なんかは海洋生態系。

事務局：オープンな場所をどう表すか迷うところ。漁場にしたがどうか。

・気象・海象がさらに一番下。地象も入れたら。言葉としてあると思う。崖崩れとか地震火山とかそう言う。

事務局：3段にするとちょっとキツいかもしない。

・地象みたいな言葉は山里川の中に含まれると思う。志津川湾で言うと、海の中に何がどう影響を及ぼすか。山里海が安定感を持つような対策を立ててないとどこかで氾濫したり土砂が流れて大変マイナスなことを及ぼす。

事務局：表し方をそんなに自由には出来ないが、工夫してみる。ベースはこの形で表すことに。右の項目は、これで必要十分か。

・1番下の生物多様性の保全推進。生態系サービスもしくは自然の恵みというところで、生物多様性を保全することによって生態系サービスがちゃんと持続的に得られるような仕組みを作つておくということがありが成り立つ。生態系サービスが分かりづらければ、説明が必要。それは例えば、藻場から私たちが受けている恵みとか、干潟の恵みとか、漁場から受けている恵みとか。食糧生産だけじゃなくて、気候を緩和するとかあとは水質浄化するとかカーボンオフセットに働くとか。生物多様性があって生態系サービスを私たちが受けられているのでそれを大事に考えましょうということがあるので、右側の箱の中にそれが必要かなと。

・三角に分けたなら、三角に分けたそれぞれの説明が必要。

・遊び学びなりわい産業の基礎としてモニタリングが必要になってくるので、基盤の所に「モニタリング」を入れてもよい。

事務局：提言書の構成の部分のご相談を。これが提言書として町長に提出され計画書になる。

・気候変動ではなくて地球温暖化の方がいいのでは？

・言葉としては地球温暖化というイメージに偏るので、もっと広い意味で気候変動では。

事務局：では環境省の報告書を見てそちらにあわせる。気候変動が使われているようだ。

・だったらそれの方が。

・2025年は敢えて外すのか？

・モニタリングとは何を指すのか。例えば海辺のゴミ拾いでゴミがどれだけ減ったも進捗状況のモニタリングではないのか。もちろん生物の多様性を調べたら今年度はこうでっていうのも1つのモニタリング。2024年にモニタリングの結果を評価して適宜修正を施す。順応的にやっていくことがある。

事務局：生物層調査のような、自然環境活用センターがやってきたものをこれからもやっていくという話と、今回の計画がどこまで出来たかとの評価について、後者はどんな頻度でやる必要があると考えるか。

- ・最初のピラミッドに漁場も入っているが、漁場のモニタリングってどうするのか。漁場の使い勝手の良い悪いみたいな話は誰が決めるのか。漁場はどういう位置づけなんだろうか。

事務局：何をやるかと誰がの部分を担うか明確に決める話かと思う。

- ・漁場と書かれると誤解が出る。
- ・海の環境のことをいうのではないか。
- ・養殖の下に汚染が溜まる。それが赤潮を誘引してるとか考えられるので、そういったヘドロの状況を調べてそれが減ってきてるとか増えてきてるとかをモニタリングするとはあるような気はする。もしくは赤潮プランクトンの発生状況とか貝毒の状況とか。そういうのは漁場のモニタリングなのかなと思う。
- ・モニタリングのやり方として、牡蠣の ASC 認証取得ならデータを取るのもあるし、目視の部分で生物の中にゴカイがいたとかを報告するような話もあって、ここでいうモニタリングがどこまでしっかりしたモニタリングなのか。
- ・目視での報告でも十分モニタリングになる。それはモニタリングの手法の話。

事務局：毎年比べられるように情報を集めるのが基本になるかと思う。

- ・そう考えると第三者のちゃんとしたモニタリングとか審査、検査するって話になる。環境が悪化してるように思ってるのは、使ってる漁業者だけの話ではないよとなってくる。
- ・漁場だと生業の方のイメージになってしまふ。魚が取れるとか取れないとか。

事務局：誤解を招くので、漁場という言葉じゃない方がいいか。その場合、オープンな環境をなんと呼ぶか。

- ・漁場環境にしても変わらないか。
- ・海洋環境やオープンウォーターはどうか。

事務局：この計画自体の評価修正の方法はどうするか。誰が測るかは置いても、上がってきたデータを評価するのはこのような集まりではないかと思うが。

- ・下の2行目のところの計画は進捗状況をモニタリングしてというと、状況をモニタリングするっていうことになってしまふので、策定された計画に従ってモニタリングされた内容を毎年整理する。それを3年毎に評価して必要な修正を行うということか。だったらそういう内容にした方が分かりやすい。進捗状況というと何パーセントだとかどこまでやったとか数値目標が必要。
- ・アクションはもりこむのか。ゴールが10年後こうなるっていうのがあるのであれば、アクションっていうのが大事。モニタリングはどちらかというと監督のイメージ。

事務局：ゴールの数値までこの場では時間的に決めきれない。評価する軸までは決めたいところ。

評価自体も毎年必要かどうか。

- ・モニタリングは1年目2年目3年目にやるものか別々でも構わない。それはどれだけの予算と人材がいるかで変わる。
- ・今やってる藻場のモニタリングも、3年から5年に1回やることを目指している。

事務局：次は範囲を。今回大事な干潟が抜けてるのでここまで入れるという話と、陸域とのつながり話もでているが。

- そもそもこの線は何の線引きか。

事務局：県や町の漁港管理部署とのせめぎ合いの結果。抜けている部分は元々国立公園地域に入っていない。

- 50年前に金華山国定公園を制定した時に抜けた。なんで抜けたかは正確にはわからない。
- 新たに入れることは可能か？

事務局：データが集まり重要性が示され、なおかつ地元の合意があれば。まず国の区域拡張を勝ち取り、その先でラムサール事務局に提案することになる。ラムサール条約締約国会議自体も3年に1回しか開かれない。3年後なのか6年後なのか9年後なのか。

- 新たに取得もそうだが3年後見直す時に、藻場が無くなれば登録湿地取り消しもある？

事務局：有り得る。

- 管理している国が消滅した事例はある。
- 日本ではそうなったところはまだない

事務局：追加資料で具体的な目標として整理してきたもの。分野は先程の三角のピラミッドに対応している。目標とする姿は四角で囲んだ中の文言。達成項目とか具体的な内容については、これまで頂いた意見を反映させた。評価指標については、事務局で当てはめた。

- 藻場のモニタリングをするというが面積はどれくらいか。
- 今はまだ出てないが、衛星画像と合わせればある程度は分かる。2019年に全域の海底の藻場調査はやっているのでその時の衛星データ入手して解析すれば可能。解析が結構大変な作業なので専門家と協力して予算を取っていかないといけない。
- 河川水の栄養供給、外洋との海水交換については、震災後に私達も調査に協力したが、森は海の恋人っていう表現はあったけれども、実際色々な調査してみると恋人というよりは友達レベルとなった。どこまでふれるのがよいか。イメージでつながっているというのは分かるが、あんまり厳密に書いてしまうのもどうか。

事務局：確かに栄養は消した方がよいかもしれない。

- 藻場の面積については、どれだけ炭素固定してるかそこまで踏み込むべき。数値で。それがどれだけ炭素固定してるかっていうことまで行くと、より身近というか、あるいは南三陸町の藻場の重要性っていうのが評価されるんじゃないかな。
- 藻場は海藻藻場と海草藻場と、両方記した方が良い。特に志津川湾の藻場は海藻藻場の多様性が高い。
- アマモは船のプロペラに絡むので文句があることある。
- 松川浦でも、漁師はあんなもの刈った方が良いという人もいる。
- その意識が変わるとよい。
- 松島あたりは藻場を守りましょうという方向性をもつていて、地域で大分意識が異なる。あとヨシ藪が岸边にいっぱい生えてるとヨシの花藪が落ちてノリにくつつくと品質が落ちるから、ヨシ藪がない方がいいという極端なことをいう人もいる。山里との関係でも例えば土砂崩れが堤防を破壊して大量の土砂が海域に入ってくると海の生態系がかなりダメージを受ける。なのでそういうことが無いように山里とか河川の整備、土砂崩れする地形箇所は事前にしっかり対策しておく必要があるよってことは書いてもいいかなと思った。
- そこを徹底すると河川全部が三面護岸って話になるのではないか？

- ・それは手法の問題であって、河川の整備の仕方が三面護岸でなければいけないとは思わない。今は国交省とも遊水池とか氾濫源を作るとかいろいろ考えている。指摘しておくことは必要なのかなと。
- ・逆に全く土砂の流入がないと海岸線が侵食される一方になる。
- ・やはり適正管理ではないか？
- ・グリーンインフラを強調しておかないといけない。そもそも山の方は山の方で考えるしかないだろうけど、FSCは大面積は難しいので、自伐林業家も頑張ってるので彼らとも上手くやっていければいいなと。小さく小さく入り込んでって全般的にどんどん良くしていける。大きい林業家さんだけじゃなくて両方バランス取れたやり方で。ただそれをラムサールの計画にまで入れ込む必要は無いと思うが。
- ・海岸線がどんどん崩れているが、魚付き保安林になってるところは県や国が保全してくれる。
- ・バトンタッチできる自然は、他の達成項目で満たされるのでは。それが無くても。

事務局：消去する。

- ・戸倉スタイルと書くと歌津の方の反発はないか？
- ・環境に配慮した持続可能な漁業に変更。

事務局：訂正する。干潟の部分は明確に入れた方が良いと思うがどうか。

- ・歌津には干潟はないのか？
- ・折立は入れなくてよいのか？
- ・伊里前でもサンリクドロソコエビ（絶滅危惧種）がでている。イシマキガイ（千葉など9府県で絶滅危惧種）がいるのは確認した。
- ・波伝谷も昭和50年代前半は全部干潟だった。あれだけの広い面積全部埋め立ててしまったが、アサリいっぱい取れた。
- ・港川河口もアサリが取れている。
- ・桜川の河口のところもいい具合に干潟環境戻ってきてている。礫干潟。小さい頃はアサリ取った。
- ・細かい礫がある干潟っていうのはあちこちに無くなっちゃってる。そういうのが残ってると、特有の生きものがまた出てくる可能性もある。
- ・ツブ・カニ・海藻が取れるってなってるが、漁業権があるから勝手に取っては駄目。漁協の中でもやはり規制すべきとの意見が出ている。

事務局：取れる部分を消す。

- ・育つにしたら？
- ・それなら問題ない。取って食べればいいなと思うけど。
- ・海遊び出来なくなるのが問題。
- ・命の繋がり大切さを学ぶ場となっている中の、海辺の観察のモデル地区になっているの中で、イルカやマンボウ、アホウドリとなっているが、アホウドリもいるのか。
- ・沖にいけばアホウドリも確かにいる。もうちょっと近くの話も入れた方がよい。
- ・学校教育に関していえば、小中学校今町内に小学校5箇所、中学校2箇所があるので、例えばいのちめぐる紙芝居は年1回全部回るってなってる。環境審議会の方で表にあげてモニタリングしている。単に小学校行きますよ、というよりは年に1回行われてるとした方が良い。

- ・町外の学校向けの機会も結構ある。環境について学びたいという要望もあるのでそこもプラスして。
- ・ラムサール基金などが設置される云々のところ、そういう観察とか勉強とか自然環境学習を指導できる人を養成もしくは指導者を招聘する。例えば干潟でも生きものの市民調査だったり色々なことできるんが、それにはそれを教えてくれる人材がいないと実現しない。町内でそういう人もまた育つていけば、というところもある。学校で、そういう総合学習をやるにしても、指導できる人を呼んできて進めていく。そのためには、それだけの費用もかかるんだっていうことがどこかに必要。
- ・ツアードアホウドリ見に行くっていうのは船で沖合に出るってなると、これは3年前から、人を乗せる行為の安全とか不定期航路の申請とかすごいさくなつた。運輸局申請して検査、保険入ったりいろいろな制約ができた。だからいろんな段階あってこういうこと出来る。悪いことじゃないけど前提っていうのは安全とかいろんなこととか法的なことある
- ・保安部も人によってあの人はいいって言ってるけど、別の人には駄目だという。

事務局：次になりわい・産業の方はどうか。

- ・ネイチャーセンターの運営について具体的に目標をどうするかっていうのを決める段階になると、どこまで踏み込んだらいいのかっていうのが難しいなと思う。
- ・ASC認証が浸透している中で、ASC認証に関してはどう考えてる？カキの話だろうけど、新たな魚種はどう考えている？

事務局：特に魚種は書いてないので。新たな魚種についても認証取得は進めてよいのでは。

- ・ワイスユースプランは、どのように評価すればよいか。ものじゃなくツアーミたいなサービスも商品？
- ・そうすると志津川湾モデルとはどういうものになるか。

・志津川モデルはそこじゃなくて左に書くものではないのか？ワイスユースモデル地域ブランドを確立してるとこに、こういったことをやってる、実現できたときにそれが志津川湾モデルになるんだから、志津川湾モデルっていうのは小さいんじゃないくて、みんながこういった自然負荷を低減しよう考えてるっていうのが当たり前になっている、志津川モデルが構築されている。それをあちこちから視察に訪れるようなものになっている。

事務局：結果志津川湾モデルになるということか。

- ・達成項目ではなくて、これが達成された暁に志津川モデルになってる。

事務局：書き方を工夫する。ワイスユースブランドについては持続可能な製品群みたいなことでよいか？環境に配慮した製品群みたいなイメージか？

- ・例えば再生可能、生分解性プラスチックを使ったものとかはワイスユースって言うとちょっと違う。この地域の資源を上手く循環する形の商品をワイスユースブランドと定義するか。

事務局：結構難しく、やってくうちにだんだんブしていくことが往々にしてある。

- ・液肥で作った米なんかはまさにそういう商品。いくつか条件を設定してそれに合致すればっていう、もう少し細かい設定は必要であろう。
- ・環境負荷を低減するって中に、例えば化学肥料、農薬の低減化を図るみたいなことは入らないのか。前そういう話がちょっと出でいたと思う。
- ・それから海辺に出た時に必ずゴミを拾う。ゴミの資源化じゃなくても、今あるゴミを拾う。

- ・1番よくある当然の取り組み。
- ・環境の負荷を低減するということに関わる。
- ・そこは以前から海の日は皆で海岸をしていた。まだ漁港整備が出来ていなくても、そこはやつた方が良いことは分かっている。

事務局：暮らし文化のところ、1番下の方が達成指標・評価指標設定が難しい。。

- ・例えばちょっと抽象的というか情緒的な所で、評価の仕方としてアンケートとかそういう手法もある。

事務局：全部にかかることがあるが、手間とお金がかかるのでそれを低減するにはどうすればいいか一方で考えなければならない。例えば漁協がASCの調査やっているならデータを共有して頂くなど、やらなきゃいけないことはあるが、それをいかにお金を掛けずに継続的にやれるかも考える必要がある。もちろん必要に応じて、アンケート調査もやるべきだかと思う。誰がやるというのもある。町がやるのか、町と民間がやるのか、いずれにせよ書いた以上は、やっていくという覚悟を持って書くということなので、その辺をご承知おきいただければ。

この計画が無ければ10年後にはもっと駄目な志津川湾になってしまふということなので、この計画があることによって、皆さんの望む志津川湾が実現できることに繋がる。だからこそこの会議の意味がある。

- ・話が戻るが、どの分野でも人材育成は大切。次の世代に引き継ぐための人材育成っていうのは、私たちに一番課せられた話だと思う。
- ・若者が地域に定着しているっていうのがある。ここら辺にもそういう文言を入れておくのは、よいかもしれない。
- ・ASC認証取得したが、ASC認証を継続するのもそれはそれで結構大変な部分もある。絶対必要なんだと話が引き継がれていかないと、稼げばいいとなってしまう。そこで職員も漁業者もそうじゃないんだ、震災から学んだことはこういうことなんだっていうのをやってかなきゃいけない。とはいっても歴史は繰り返される。
- ・教育が大事。
- ・震災から学んだことが活かされてるみたいなのはどつか出てこないのか？前書きでもいいが。いのちめぐるまちが文化となっているというのを、震災から学んだことが活かされているにしてはどうか。

事務局：今日いただいたご意見を文章にしてみて皆さんまた見ていただいて、というやりとりをしながら次回完成に持つていければと思っている。

- ・今のイメージで行くと冊子のページ何ページくらい？

事務局：20～24ページくらいになるか。

- ・きちんと言葉を説明しておかないと分からないところもある。生態系サービスとか生物多様性とか漠然と言葉は分かってるけど中身は知らないみたいな。ラムサール条約だってみなさん知ってるけどラムサール条約の中身や目指すものは分からない。

事務局：皆さんが素朴にわかんないところは注釈入れる。出来れば次回ある程度形にして12月に町長に提出したい。

阿部委員長：長時間にわたる貴重なご意見をいただき、第4回の会議をこれで終了するが、事務局は12月に町長に提出したいということではあるけれども、場合によっては5回が6回になる可

能性もあるかもしれない。せっかく皆この志津川湾を将来どうするかっていう策定会議なので、最高の出来で町長に渡したい。時間のないことはわかるが、場合によっては頭に入れて会議を進めてもらいたい。第5回もよろしくお願ひする。